

07月22日(日)開催 第3033回例会

楽しく学べる植物観察パート・I

「学習の森周辺の草花を観察」に同行して

布引支部 吉野 宏

6月下旬、梅雨前線が日本付近に停滞した上、29日に発生した台風7号の影響で非常に湿った空気を含んで大雨になりやすい状況となっていた。そして、降り出した雨は、7月8日夜まで続き、記録的な大雨となって西日本を中心に広い範囲で甚大な被害が発生したのである。

ちなみに6月28日～7月8日(9時)までの総降水量は、四国地方で1800ミリ、東海地方で1200ミリ、九州北部地方で900ミリ、近畿地方で600ミリ、中国地方で500ミリを超えるところがあるなど、7月の月間降水量としては平年値の2～4倍となる大雨になったと連日報道されていた。

いずれにしても、大変な被害に遭われた方々には一日も早い復旧復興により、平穏な生活が戻られんことを祈らずにはおれない。



スタート前のミーティング風景(さつき園駐車場)

そしてその後、皮肉にもこの例会が催されるまでの2週間余りは、連日33度前後の猛暑日続きとなり、あの恨めしい雨水を恋しく思ったのは草花樹木だけではなかったのでありました!

.....

JR 神戸駅南側から鈴蘭台行 9 時 31 分発のバスに参加者全員乗車。ちょっとしたバスハイ

ク気分である。平野より有馬街道を少し北へ走るとすぐに祇園神社が見えてくるが、ここから右へ有馬街道の旧道に入った。平野橋の信号から新道を横切り再び旧道へ。草谷・高座・金清橋など懐かしいバス停名が目に入る。若かりし頃、今は亡き先輩たちに岩登りを教えてもらった岩場が、この近くにある城ヶ越の「スタンドロック」であって、高座金清橋やその次の水呑などのバス停から乗ったり 降りたり、よく通ったことが思い出される。



講師の説明通りループで拡大し、観察する参加者

水源地前でバスを降り、洞川湖への車道に向かう。途中、介護施設・さつき園の駐車場内(主催責任者が事前に許可を取ってくれていた!)でスタート前のミーティングを行い、ループなどを受け取って出発。車道の道端にも多くの植物が自生しており早々観察開始。参加者は講師2名の説明に熱心に耳を傾け、観察されていた。



アキノタムラソウ



オニドコロ



コマツナギ



これ何だった？・・・

ノブドウで～す！



鍋蓋北尾根へ抜ける牛ノ背の入口を過ぎ、洞川教育キャンプ場前を通って学習の森までは僅か1.5キロ程の距離であるが、そんな中で説明を聞きながら植物の名をメモし、観察模様の写真を撮ってくれた松本良一氏いわく、「書けたものは半分にも満たないと思う！」とのことであったが、それにしてもよくそこれだけ筆記したものだ！・・・(彼の成果？を掲載しておきます。)

【草類】

ヤブジラミ・カエデドコロ・アキノタムラソウ
オニドコロ・ブタナ・オオキンケイギク・
ヘラオオバコ・アオミズ・ダイコンソウ・オカトラノオ・キツネノボタン・ネジバナ・
ヨウシュヤマゴボウ・ハエドクソウ・イタドリ

ブタクサ

【樹木類】

ニガイチゴ・アカメガシワ・ヌルデ・コマツナギ・オニグルミ・ウリカエデ・エゴノキ・コバノガマズミ・タンナサワフタギ・ホオノキ・キブシ・カマツカ

【蔓類】

ノブドウ・アオツツラフジ・サルナシ・ヤマノイモ など。(講師が説明してくれた詳細については記載を省略)



上・手に取って説明される吉野自然保護委員長
下・枝を引き寄せ説明される仁科自然観察講師



昼食場所を予定していた学習の森(旧神戸市教育植物園の跡地)へは12時前に到着。2時間足らずの植物観察会ではあったが、酷暑にもめげず熱心に聞いておられた参加者の皆様には頭の下がる思いをした同行者でありました。

天候 晴れ

担当 例会・自然保護委員会

兵庫県山岳連盟/自然保護委員会

参加者 31名(内当会員24名)

観察風景写真提供 松本良一

